

鉄器厨房用品へのユニバーサルデザインの導入*

町田 俊一**、有賀 康弘**、東矢 恭明**、長嶋 宏之**

平成 13 年度から、岩手県で生産されている各種日用品を対象に、ユニバーサルデザインの導入を目的として、ユニバーサルデザイン推進事業を実施している。平成 13 年度は鉄器厨房用品をテーマに、事例開発を行い、ハンドブックを作成した。

キーワード：ユニバーサルデザイン， 南部鉄器

Introduction of a Universal Design to an Ironware

MACHIDA Toshikazu, ARUGA Yasuhiro, TOYA Yasuaki
and NAGASHIMA Hiroyuki

"Universal design promotion enterprise" is carried out since 2001, which contains the example development and making handbooks for the universal design, In order to introduce the universal design into various daily necessities produced in Iwate. In 2001, 24 examples of ironware galley articles were developed, and the handbook of introducing universal design was made.

key words : universal design, iron-casting ware.

1 緒 言

岩手県で製造されている生活用品の多くは地場産品、工芸品としての位置づけをされている。しかし、最近実施された、「伝統的工芸品」製造業に関する調査では、昭和 54 年をピークに 15 年間で企業数、生産額、従事者、それぞれ約半分に減少している。これは、景気の低迷だけでなく、工芸品が嗜好性の強い情緒的なモノとして使用者に受け取られるようになり、一般的な生活用品の範疇からはみ出ってしまったことに大きな原因があると考えられる。

昨今、ユニバーサルデザインという考えがものづくりやまちづくりに取り入れられつつある。ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」であり、年齢、性別、身体、国籍など、人々が持つ様々な特性や違いを越えて、できるだけすべての人が利用しやすい、すべての人に配慮した、環境、建物・施設、製品等のデザインをしていこうとする考え方で、このユニバーサルデザインの考えは、工芸品を生活の中に引き戻す上で必要不可欠なものであり、大きな効果が期待されている。また、全国的に見ても生活用品にユニバーサルデザインを導入する傾向が顕著になってきており、近い将来、製品の品質を保証する規格として位置づけられることが予想され、本県においても、ユニバーサルデザイン概念を製品に導入する事が緊急の課題になっている。

そこで、県産品へのユニバーサルデザインの導入を目的として、規範デザインの開発と導入のためのハンドブックの製作を主たる内容とする「ユニバーサルデザイン推進事業」を 3 カ年計画で実施している。各年のテーマは、初年度が鉄器厨房用品であり、2 年度、3 年度はそれ

ぞれ、家具・インテリア用品、自助・介護用品である。平成 13 年度は、岩手県の代表的な工芸品である、鉄器業界に焦点を当て、誰にでも使いやすい製品を作るためのユニバーサルデザインの導入を試みた。

2 研究方法

平成 13 年度は次の項目について事業を実施した。

- ・市場動向、需要動向等の検討結果による開発品種の決定
- ・開発予定品種に関する必要なデータの収集、(製造技術、素材等)
- ・従来製品の問題点の抽出と分析
- ・ユニバーサルデザインの配慮の具体的なアイデアの創出
- ・デザイン案の作成
- ・指導者の招聘によるユニバーサルデザイン技術の受講
- ・試作製品の決定と試作
- ・ユニバーサルデザインハンドブックの作成

3 結果及び考察

3 - 1 開発テーマと製品、コンセプトの設定

南部鉄器は厨房用品からインテリア、エクステリア用品まで多種多様なものが作られているが、今回の事業を行うにあたり、開発製品として、使用上の機能強化の観点から厨房用品の代表的な、鍋（浅鍋、深鍋）、フライパンを、また現代生活への適合性向上の観点から、伝統性の高いデザインが多い鉄瓶（ケトル）を選定した。

コンセプトに関しては形状と機能を改善することで、つまりデザインによって、鉄器の良さを損なうことなく、現在の住環境の中でいかに使い易くするかを基本理念と

* 平成 13 年度ユニバーサルデザイン推進事業

** 特産開発デザイン部

した。また、すべての人に使いやすいという点において、鉄器の大きな欠点のひとつは重さである。今回の開発では、形状による重量の軽減も考慮したが、技術や材料面での改良が今後の課題と言える。また、電磁調理器対応は条件の一つとした。

3-2 デザインのプロセス

ユニバーサルデザインの考えを取り入れた製品をデザインするにあたり、ユーザーの視点で不都合な点を整理し、それを改善することでユーザーの要求を満たす製品に近づけようと考えた。

3-2-1 従来製品の問題点の抽出と分析

まず、ケトル、フライパン、鍋の各品種ごとにそれらの製品の使われ方を手順に応じて検証し、動作中の不都合や注意点を洗い出した。フライパンの例を図1に示す。

3-2-2 ユニバーサルデザインの配慮の具体的アイデアの創出

次に、不都合や注意点を整理し、使用上の問題点を導き出した。フライパンの例を図2に示す。

3-2-3 デザイン案の作成

問題点を改善するためのアイデアを検討した。フライパンの例を図3に示す。次に、その結果を元にデザインスケッチを作成し、デザイン原案24点を作成した。フライパンのデザイン開発例を図4、5に、他の製品事例を図6、7、8に示す。

3-2-4 指導者の招聘によるユニバーサルデザイン技術の受講

平成13年11月26日から30日までの5日間、フィンランドより、デザイナー、ヘイッキ・オルボラ氏を招聘し、開発製品のデザインについて理念、改善方法等の指導を受講した。指導は表1に示す日程と内容で実施された。

3-2-5 試作製品の決定と試作

南部鉄器協同組合と共同で、鉄瓶を10点試作した。

3-3 ユニバーサルデザインハンドブックの作成

企業が自社の製品にユニバーサルデザインを活用する際の参考に資することを目的として、下記の内容によるハンドブックを作成した。(図9参照)

- ・文献、資料等によるユニバーサルデザイン情報の収集
- ・他の参考事例の収集と紹介
- ・事例デザイン開発におけるプロセス、デザイン技術の紹介・提案

4 結 言

ユニバーサルデザイン推進事業は平成13年度から3年間にわたって継続する予定である。平成14年度は家具・インテリア用品を、平成15年度は自助・介護用品をテーマにし、事例開発とその中で得られたノウハウを記載したハンドブックを作成する。

また、ユニバーサルデザイン推進事業の中で開発される製品やデザインは、多くの企業の皆様に参考にしていただきたいと考えている。

本事業の中で、製品開発の一部を意匠開発事業と共同で行った南部鉄器協同組合ならびに組合員事業所の皆様、今回開発した製品の完成度の向上と、道具の普遍性を高めるためのデザイン上の理念、具体化の方法についてご指導をいただきましたヘイッキ・オルボラ氏、基本的な理念、事業の進め方について貴重なご助言をいただくとともに、ヘイッキ・オルボラ氏をご紹介いただきました元デザインフォーラム・フィンランド事務局長のタピオ・ペリアイネン氏に謹んで感謝申し上げます。

文 献

- 1)「日経バリアフリーガイドブック2001年版」
誰もが快適に暮らすための情報誌 日経事業出版社/2001年3月発行
- 2)「バリアフリーが街を変える」 市民がつくる快適まちづくり バリアフリーデザイン研究会編/学芸出版社/2001年4月発行
- 3)「ユニバーサル・デザイン」 バリアフリーへの問いかけ 川内美彦著/学芸出版社/2001年4月発行/
- 4)「図解 ITバリアフリーのすべて」新谷文夫・高村茂編著/東洋経済新報社/2001年4月発行
- 5)「建築とユニバーサルデザイン」古瀬敏著/オーム社/2001年6月発行
- 6)「お年寄りに役立つ道具案内」銀ちゃん便利堂編/学陽書房/2000年9月発行
- 7)「バリアフリーの商品開発」 ヒトに優しいモノ作り E&Cプロジェクト編/日本経済新聞社/1994年11月発行
- 8)「バリアフリーの商品開発2」 超高齢社会を支えるモノ作り E&Cプロジェクト編/日本経済新聞社/1996年10月発行
- 9)「ユニバーサル・デザイン」 超高齢社会に向けたモノづくり ユニバーサルデザイン研究会編/日本工業出版株式会社
- 10)「中小企業経営ハンドブック ユニバーサル・デザイン・ソリューション」 すべての一人のための商品づくりをめざして 中川聰著/京都府中小企業総合センター/2000年3月
- 11)「すべての人にやさしいまちづくり事例集」
財団法人 地域活性化センター/2000年10月
- 12)「季刊 ユニバーサルデザイン」 21世紀の福祉文化をデザインする vol.0~7 梶本久夫編/株式会社ジー・パイ・ケイ/1997年~
- 13)「UDF NEWS(ユニバーサルデザインフォーラムニュース) Vol.1~10 ユニバーサルデザインフォーラム事務局/1999年~
- 14)「日経デザイン」第140,151,152,154,156,158,160,172,174号 日経BP社/毎月1回24日発行



図4 開発したフライパンのデザイン例1



図5 開発したフライパンのデザイン例2



図6 開発したケトルのデザイン例1



図7 開発したケトルのデザイン例2



図8 開発したケトルのデザイン例3

表1 指導日程・内容

日	項目	備考
11月26日(月)	・進捗状況説明 ・鉄器製造技術説明 ・業界視察(鉄器製造業者3社訪問) ・デザイン案の説明 ・デザイン案に対する改善作業	工業技術センター担当者
27日(火)	・デザイン案に対する改善作業	工業技術センター担当者
28日(水)	・デザイン案に対する改善作業 ・改善に対する技術上の課題点に関する製造業者との意見交換	工業技術センター担当者、製造業者
29日(木)	・ユニバーサルデザイン講習会 ・県内企業との交流会	県内製造業者全般を対象 会場プラザおでって 時間13:30~16:00 受講者128名
30日(金)	・デザイン案に対する改善作業 ・全体的なデザインの統一性の指導 ・鉄器へのユニバーサルデザイン活用 の基本的方向性に対する指導	工業技術センター担当者



図9 作成したハンドブック(表紙)